

連載 みんなのSDGs

スリーアール ごみを減らそう！3R ①



2021年度の福島県の1人1日あたりのごみ排出量は1,029g。2年連続で全国2番目の多さでした。都道府県別で一番少ないのは京都府の775g。全国平均は890gで、福島県は139gオーバーしています。

伊達市の1人1日あたりのごみの排出量は1,184gで、県内でもかなり多い方に入っています。では、そのごみは一体どこから出ているのでしょうか？福島県のごみ総排出量のうち、71%は一般の家庭から出たごみ（生活系ごみ）で、残り29%が会社やお店などから出た廃棄物（事業系ごみ）とされています。伊達市では73%が生活系ごみ、27%が事業系ごみ。生活系ごみが7割を超えるのは、全国的にも高い方であり、生活系ごみの量が多いことにより、全体量が押し上げられていると考えられます。

よくできました		がんばりましょう	
1 京都府	775 g	1 富山県	1,032 g
2 長野県	800 g	2 福島県	1,029 g
3 滋賀県	809 g	3 青森県	1,002 g



データ出典：『日本の廃棄物処理』令和3年度版（令和5年3月、環境省）

Check! フォローアップ 全国高校生地方鉄道交流会@伊達市



2023年8月18日（金）から20日（日）にかけて、伊達市で「第12回全国高校生地方鉄道交流会」が開催されました。

全国高校生地方鉄道交流会は、高校生が沿線地域に学び、交流をはかりながら、対象路線を基軸とする地域活性化案をたて、企画として発表するイベントです。今回のテーマは「阿武隈急行を利用した、地元商店街活性化とは」。全国11校の高校生が伊達市に集い、阿武隈急行線沿線を舞台に調査、企画、発表力を競い合いました。

参加した高校生はどんな様子で、発表ではどんなアイデアが飛び出したのか？支援センターは、主催団体の代表をお招きして、地元・伊達市の私たちと一緒に、今般のイベントの“振り返り”をしていただくことにしました。交流会からヒントを得て、後に事業化された例も全国に数多くあるそうです。楽しいお話が聞けそうですね。

- 【日時】令和5（2023）年10月25日（水）午後2:00～
- 【場所】保原中央交流館大会議室（3階）伊達市保原町字宮下111-4
- 【講師】一般社団法人 全国高校生地方鉄道交流会 代表理事 大溝 貴之 氏



参加無料。お申込みをお願いします。お問い合わせは伊達市市民活動支援センターまで。024-563-6970

伊達市市民活動支援センター

〒960-0756 福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
月～金曜日(年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
※木曜日は午後7時00分まで
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp http://www.date-civilsupport.jp/
伊達市市民活動支援センターNEWSのバックナンバーはHPからごらんいただけます。



だってちゃんは、伊達市が千葉県白井市と友好交流協定を締結した際に贈られた、伊達市ゆかりのキャラクターです。



2023（令和5）年 9月発行 vol.56
企画・編集 伊達市市民活動支援センター
〒960-0756 福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp
http://www.date-civilsupport.jp/

市民活動 いろは 教えて！だってちゃん

Q. NPO法人には税金がかからないの？

A. NPO法人にも一定の納税の義務が課せられています。

「NPO法人は社会のために活動をしている＝税金はかからない」と思っていますか。法人税や消費税、固定資産税、自動車税など、普通法人にかかる税金はNPO法人にも課せられるものと考えておく必要があります。【法人税・法人事業税・法人住民税】

NPO法人は、法人税法上の公益法人等とみなされ、収益事業を行う場合は利益に対して課税されます。法人税は国税、法人事業税は都道府県税で、適用税率は普通法人と同じです。法人住民税には都道府県民税と市町村税があります。どちらも法人税割と均等割からなりますが、NPO法人は、たとえ収益事業を行ってなくても均等割の納税義務があります（多くの自治体は収益事業を行わない場合の免除規定を設けています）。

法人税法上の「収益事業」とNPO法でいう「その他の事業」（「特定非営利活動にかかる事業」に対する「その他」）は定義が異なります。事業が課税対象にあたるかどうかかわからないときは、専門家に相談しましょう。

【消費税】物やサービスの提供を対価を得て行う場合には、NPO法人にも消費税が課税されます。ただし、基準期間（原則として前々事業年度）の課税売上が1,000万円以下の事業年度については、納税義務を免除されます。



QRコードから支援センターHP内の紹介ページにアクセスできます。

COCO～（ココカラ） 伊達市伊達町

自分にとっても必要な場所

不登校の子どもを持つ家族のためのお話会を、月1回開催しています。2021（令和3）年に任意団体の活動としてスタートさせ、団体の解散後は個人で続けています。同じ境遇にある者同士が気兼ねなく話し、気持ちを分かち合い、情報を共有する。私自身に当事者として助けられた経験があり、今も自分にとって必要な場所になっています。毎月の集まりには、親世代の方、祖父母世代の方、男女あわせて5～10人程度の参加があります。初めて来る方もいます。ざっくばらんな雰囲気の中で、近況を話したり、困りごとや悩みを打ち明けたり。必要を感じたら、一度いらしてみてください。

手を差し伸べるために

子どもは学齢期を過ぎ、年齢を重ねても、また違う生きづらさに直面するかもしれません。家族には多岐にわたる対応と、息の長いサポートが求められます。子どもを支える社会の仕組みは、時にわかりづらく情報や支援、サービスを求めて、自治体、学校、医療・福祉機関の間で困っている方も多いです。官と民の多方面にまたがり、家族の困りごとをワンストップで受け止められる窓口が欲しい。求めている人に手を差し伸べられる状況を作っていけたらと思います。090-2021-7055 清水)



https://www.instagram.com/nori5san/

だてな活動

流町若連会

伊達市保原町上保原流町

伝統に学び、新しい地域文化を創っていく

流町若連会は、地元祭事での山車引きと太鼓演奏を基軸に、盆踊りなどイベントを実施したり、上保原小学校の育成会とも連携のうえ、地域のためのボランティア活動を行っています。



第15回 ふくしま山車祭り

現在の会員は、20～50代の男女約30名。子どもの頃に太鼓を習った人がそのまま会員になるなど、太鼓がきっかけという人も多く、地域の先輩から伝統を学び、次世代に伝える新しい文化を創っていく場になっています。最近は、新興住宅地からの参加も増え、新しい住民が地元で親しむ窓口の役割も果たしています。

みんなで地域を盛り上げましょう

イベント参加や太鼓出演の依頼など、若連会に来たオファーは基本的に受けるようにしています。今夏は「第15回ふくしま山車祭り」に参加したほか、近隣で開かれるマルシェや屋内子ども遊び場でも太鼓演奏を披露しました。



2023 シン・純情夏祭り

若連の主催では、4年ぶりに盆踊り「シン・純情夏祭り」を開催。ご当地アイドル「ゆめいろ流星群」招聘の効果もあってか、想定外の盛況を博し、大人230人分、子ども150人分用意した景品が足りなくなるほどでした。流町若連会の特徴はオープンなところ。太鼓をたたきたい方は、住んでいる地区や所属に関わらず、誰でもウェルカム！です。みんなで盛り上げましょう。(090-2998-2991 渡邊)

<https://www.facebook.com/nagashimati>



第15回 ふくしま山車祭り



奥州随一の美人！
かけたこせん
懸田御前のお膝元です♡

掛田自治協議会

伊達市霊山町掛田字西裏17

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナシップで目標を達成しよう

だてな活動

今あるものを大切にする

今年度の私たちの目標は「笑顔で進もう」です。掛田が好きだ。これからも住み続けたい。さくらまつりや映画祭、門松づくり、生涯学習教室など、自治協議会の様々な催しを通じて、地域の皆さんと思いを共有していきたいと思ひます。私たちの活動の中心にあるのが、今あるものを大切にする気持ち。今般は、『掛田の歴史ガイド』作成により、その気持ちを一つの形にすることができました。歴史ガイドは、掛田を4つのブロックに分け、地域に残る史跡や建造物、神社仏閣、小祠・小堂を私たちが自ら探索し、3年の歳月をかけて冊子にまとめたものです。昔を想い、今を楽しむことが、地域のこれからを後押ししてくれるように思ひます。

地域の歴史になっていく

掛田のシンボルであり、数々の歴史の舞台となった茶臼山も、多くの地域住民にとって思い出深い、心のふるさとになっています。私たちは、茶臼山が末永く親しまれていくよう、他の団体とも協力しつつ、草刈りや案内板設置など、環境整備に努めています。おもしろいと思うのは、こうした取り組みが後世に伝えられていけば、私たちの活動もいずれ、地域の歴史として語られるようになるだろうということです。歴史を創り、その一部になっていく。そう考えると元気が出てきます。

(024-586-1314 佐藤)

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100091502011428>

掛田地区

- ・人口：2,680人
- ・世帯数：1,139世帯 (2023年8月末現在)



2023 (令和5) 年4月発行

掛田の歴史ガイド

掛田自治協議会

『掛田の歴史ガイド』表紙 (全80ページ)

だてな活動

特定非営利活動法人 伊達氏のふるさと梁川会

まちの駅 やながわ

伊達市梁川町字大町一丁目60

開業以来、ほとんどない…

今春オープン5周年を迎えた「まちの駅 やながわ」。実は、開業以来、年間を通して通常営業した実績がほとんどありません。2019 (令和元) 年10月には、台風19号による河川の氾濫のため、梁川町内で甚大な浸水被害が出ました。まちの駅は、自らも被災しつつ、被災者支援ステーションとして情報提供や炊き出し、生活物資の配布に携わりました。翌年2月、ようやく再開業に漕ぎつきましたが、程なくしてコロナ禍に見舞われます。感染症拡大防止に努めながら、手探りの運営が続きましたが、そんな中、まちの駅の本分である地域密着にはこだわり、下地を作ることができたと思ひしています。



2023 開業5周年春祭り

まちの駅はパートナー

まちの駅として、集客数や直売所、お食事処の売り上げはもちろん大切です。しかし、評価のポイントは、「いかに地域に根差し、地域を元気にしたか」に尽きるのではないのでしょうか。イベントを実施するときは、地域の各種団体と一緒に実行委員会を立ち上げ、まちの駅はその一員として関わります。声をかければ話に乗ってくれ、自ら動く地域の皆さんたちと、一緒に盛り上げることを大切にしたい。まちの駅をきっかけに、地域が一緒になって動いていく。そんなスタイルが根付いたと思ひています。(024-573-7235 佐藤)



2023 サマーフェスティバル



秋の店内風景



ふるさと梁川



ぼっこカフェ

伊達市月館町月館字久保田5番地

あるといいな。から始まった



ぼっこカフェメンバー

ぼっこカフェは、毎週木曜日と金曜日の午前10時から午後3時まで、月館総合支所内でオープンしています。美味しいコーヒーを飲みながら、どなたでもゆっくり過ごしていただけます。メンバー18名がシフトを組み、常時2名がお客さまと一緒できるよう交代で活動しています。カフェを始めたのは2016 (平成28) 年10月。霊山町の掛田まちなかサロン Yottemi (ヨッテミ) に行き、「月館町にもこういう場所があるといいよね」と仲間同士で話したことがきっかけになりました。メンバーは無償ボランティアで、お客さまから“お気持ち”だけ頂戴する運営スタイルです。事業として経営するのではなく、仕事にしていなくてもできること、例えばメンバーの活動への関わり方や、お客さまとおつきあいがあり、それらを大切に活動しています。

ひなた”ぼっこ”効果

ぼっこカフェの名称は、ひなた“ぼっこ”から来ています。常連さんから、たまにたま来た…という方まで、カフェには性別、年代も様々なお客さまがお出でになります。これまできっかけの無かった人と話し、繋がって、互いによかったと思ひます。そんな場になるように、ひなた“ぼっこ”効果を狙って、陽だまりの温かさのような和やかな雰囲気を中心としています。月1回、土曜日には手芸教室を開催しているほか、写真教室やコーヒー教室など、イベントも年1-2回企画します。月館町にお越しの際はぜひお立ち寄りください。(090-9635-0884 齋藤)



2023 コーヒー教室

だてな活動